

2009 年度

事業報告書

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市栄田町 1057 番地

建学の理念に堅く立って

2010年度 鎮西学院目標聖句

「強く、雄々しくあれ」 ヨシュア記 1章6節

院長 林田秀彦

I 神は偉大な指導者モーセの死後、若い後継者ヨシュアに語りかけます。「今、あなたはこの民すべてと共に立ってヨルダン川を渡り、約束の地に行きなさい。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもしない。強く、雄々しくあれ。」（1章1節—6節要約）

○「明日に架ける橋」 これは世界中の多くの若者たちのところをとらえた歌、サイモンとガーファンクルのヒット曲の題です。原名は「Bridge over troubled water.」（激流に架ける橋）です。“君がくず折れてしまうとき、頼る友達もいないときは、逆巻く波に架ける橋のように、僕がこの身を横たえてあげよう”と。「ヨルダン川」が象徴する困難、絶望、悩み悲しみなどの渦巻く激流の現実で、「体を投げ出して君のために架け橋となる」と歌うのです。「敬天愛人」の精神を持ってこの時代の中で、愛の「架け橋」となる雄々しい人格の育成に励みます。

○「約束の地へ」 神の約束の地とは「乳と蜜の流れる地」と言われ「神の平和と豊かなる大地」です。一瞬の閃光が全てのものを破壊し、多くの命を消し去る忌まわしい『「核」の廃絶とあらゆる戦争をなくすために祈り地に上に真の平和を来たらすこと』を祈る。（平和宣言）

II 鎮西学院教育の特色のために

129年の歴史を貫いて行ってきたキリスト教による教育理念の理解と具現化のために、①礼拝を重んじ、幼稚園、高校、大学の交流プログラムによる連携強化を図り、②校友会、後援会、PTA、関係者等と共に「鎮西学院 Family」の形成に努める。

III 創立130年記念のために ——歴史を学び、学院教育重要性を発信する——

2011年10月23日は創立130年を迎えます。

「1880年の初冬、テネシー大学のチャペルで、日本に向けて母国を去らんとしている私たち夫婦のために、送別の会が催されました。その会の終わる頃、メソヂスト教会の教学部長の未亡人のカブリー夫人がニドルを私たちに贈られました。それは今日、記念すべきニドルであります。」

<ロング夫人回想の記録より>

創立者北米メソヂスト教会宣教師カロール・サマー・フィールド・ロング博士夫妻は、カブリー夫人寄与のニドルが基となり、夫人の名を記念して、カブリー学校を設立し、1881年(明治14年)10月23日落成式が行われた。この日を創立記念日と定めた。ロング博士夫妻の献身とカブリー夫人の捧げる精神が学院教育の源流といえます。

IV 行事計画

- ・ 創立130年記念準備委員会進行
- ・ 新年礼拝 1月1日 9時15分 チャペル
- ・ 平和祈念礼拝 8月9日
- ・ 教会〔長崎地区〕との協力
- ・ 礼拝、チャペルアワーの充実
- ・ 物故者祈念礼拝
- ・ 諫早市民コンサート 2010年12月11日(土)

■ 鎮西学院のあゆみ

- 1881.10 (明治 14) 本学の前身、加伯利(カブリー)英和学校を長崎市東山手6番地に創設。
創設者・神学博士 C.S.ロング氏、初代校長となる。
1889. 9 (明治 22) 校名を鎮西学館と改称。つづいて学則を改めて、予科を5ヶ年制の中学部、
高等科を3ヶ年制の高等学部とする。
1906. 5 (明治 39) 私立鎮西学院と改称し、笹森卯一郎氏が日本人初の院長に就任する。
1930. 1 (昭和 5) 新築校舎竣工につき東山手の旧校舎を去り、竹之久保町の移転に移転する。
1945. 8 (昭和 20) 原子爆弾の投下により校舎壊滅し、職員7名、生徒110余名が犠牲となる。
1946. 3 (昭和 21) 諫早市永昌町海軍病院跡に移り開校。
1947. 4 (昭和 22) 新制中学と新制高等学校が男女共学で開校する。
1951. 4 (昭和 26) 中井が原の旧ゴルフ場跡地を購入し移転する。
(1949年寄宿舎、1951年高校校舎、1952年中学校校舎、1953年体育館)
1955. 4 (昭和 30) 鎮西学院幼稚園設置。
1962. 1 (昭和 37) 創立80周年に講堂が落成し、創立80周年記念式典と講堂の献堂式を行う。
1966. 3 (昭和 41) 新制鎮西学院中学校を閉校。
1966. 4 (昭和 41) 鎮西学院短期大学(英語科)を設置。翌年、教養科を増設。
1980. 4 (昭和 55) 鎮西学院短期大学を長崎ウエスレヤン短期大学と改称する。
- 1981.10 (昭和 56) 創立100周年を迎える。
1983. 9 (昭和 58) 100周年記念館落成する。
- 1991.10 (平成 3) 創立110周年を迎える。1988年より3年に亘り、高校校舎、体育館、新ロ
ング寮を完成させる。110周年記念写真集発行。
- 1996.4 (平成 8) 短期大学創立30周年を迎える。
- 2001.10 (平成 13) 創立120周年を迎える。
2002. 4 (平成 14) 長崎ウエスレヤン大学開校。(短期大学を改組転換)
2005. 4 (平成 17) 鎮西学院幼稚園創立50周年を迎える。
2005. 4 (平成 17) 大学は社会福祉学科、地域づくり学科、国際交流学科の3学科に改組。
2005. 8 (平成 17) 鎮西学院被爆60年平和記念事業として、平和の鐘の建立、平和宣言の碑の
建立、長崎から諫早までの平和大行進を行う。
2006. 7 (平成 18) 創立125周年記念写真展「いにしへの長崎」を長崎県美術館で開催。
- 2006.10 (平成 18) 創立125周年を迎える。創立125周年記念式典を行う。
2007. 2 (平成 19) 鎮西学院高等学校セミナーハウス設置。
2008. 8 (平成 20) 鎮西学院高等学校テニスコート改修工事完了。
2009. 7 (平成 21) 原爆死没者慰霊碑建立。
2009. 8 (平成 21) 平和祈念式典並びに原爆死没者慰霊碑除幕式を行う。
2010. 3 (平成 22) 鎮西学院高等学校野球グラウンド改修工事完了。
2010. 4 (平成 22) 鎮西学院幼稚園創立55周年を迎える。
2010. 4 (平成 22) 長崎ウエスレヤン大学に経済政策学科を新設。

◆設置する学校等及び入学定員

2010年5月1日現在

○長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 160名

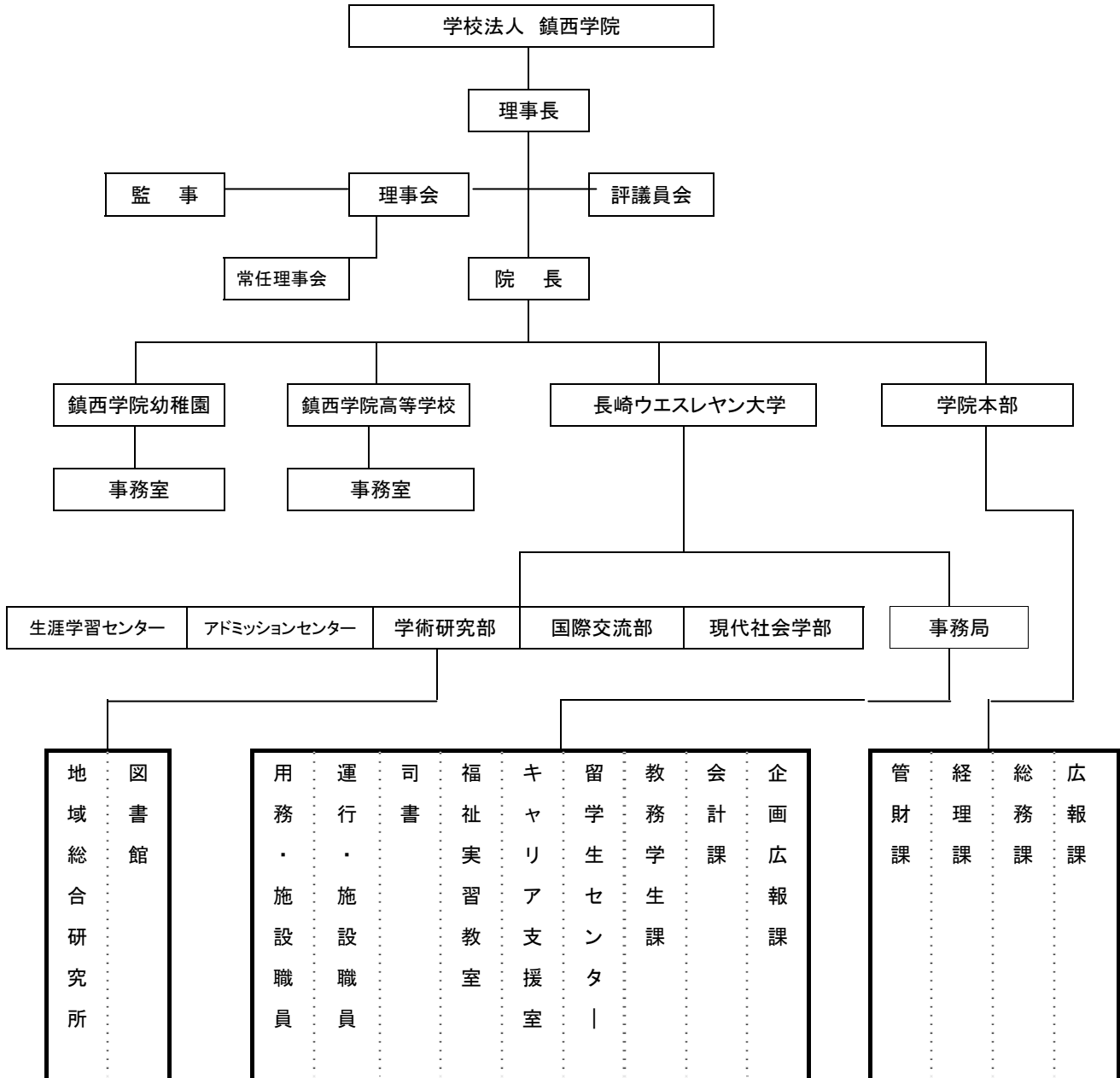
社会福祉学科 50名 経済政策学科 70名 国際交流学科40名

○鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名

普通科 200名 商業科 100名

○鎮西学院幼稚園 定員 140名

◆学院組織



■ 学院役員

2010年5月28日現在

理 事 長	栗 林 英 雄
院 長	林 田 秀 彦
大 学 長	森 泰 一 郎
高 校 長	川 村 正 徳
園 長	渡 部 勇
法 人 事 務 局 長	加 藤 育 男
宗 教 主 事	山 城 順(大学) ・ 鉄 口 宗 久(高校)

■ 理 事 会

理事会開催状況

- ・2009年 5月26日 定期理事会
- ・2009年 6月23日 臨時理事会
- ・2009年10月20日 定期理事会
- ・2010年 1月26日 定期理事会
- ・2010年 3月26日 定期理事会

○理事・監事

(理事定数15名 監事定数2名)

2010年5月28日現在

番号	職 名	氏 名	選任区分	職 業
1	理 事 長 (非常勤)	栗 林 英 雄		理事長
2	理 事 (常勤)	林 田 秀 彦	職 務 上	院長
3	理 事 (常勤)	森 泰 一 郎	職 務 上	学長
4	〃 (常勤)	川 村 正 徳	職 務 上	校長
5	〃 (常勤)	渡 部 勇	職 務 上	園長
6	〃 (常勤)	加 藤 育 男	職 務 上	法人事務局長
7	〃 (非常勤)	栗 林 英 雄	校 友 会	九州ガス㈱代表取締役会長
8	〃 (非常勤)	市 川 森 一	校 友 会	脚本家
9	〃 (常勤)	山 城 順	教 職 員	宗教主事
10	〃 (常勤)	鉄 口 宗 久	教 職 員	宗教主事
11	〃 (非常勤)	齊 藤 堅 固	学識経験者	
12	〃 (非常勤)	杉 原 宏 一	学識経験者	学院教育顧問
13	〃 (非常勤)	森 俊 介	学識経験者	長崎病院院長
14	〃 (非常勤)	西 原 英 麿	学識経験者	
15	〃 (非常勤)	瀬 頭 昭 治	学識経験者	杵ノ川酒造代表取締役
16	〃 (非常勤)	木 ノ 脇 悦 郎	教 役 者	福岡女学院院長・学長
17	監 事 (非常勤)	渡 瀬 寛		㈱ワタセ工芸社代表取締役
18	〃 (非常勤)	井 手 雅 康		税理士

■ 評議員会

評議員会開催状況

- ・ 2009年5月26日 定期評議員会
- ・ 2009年6月23日 臨時評議員会
- ・ 2009年10月20日 臨時評議員会
- ・ 2010年3月26日 定期評議員会

○評議員

(評議員定数 31名以上 32名以内)

2010年5月28日現在

番号	職名	氏名	選任区分	番号	職名	氏名	選任区分
1	評議員	林田秀彦	職務上	26	評議員	宮尾千寿子	幼稚園保護者
2	〃	森泰一郎	職務上	27	〃	齊藤堅固	学識経験者
3	〃	川村正徳	職務上	28	〃	杉原宏一	学識経験者
4	〃	渡部勇	職務上	29	〃	森俊介	学識経験者
5	〃	金原俊輔	職務上	30	〃	西原英麿	学識経験者
6	〃	川崎健	職務上	31	〃	山口哲生	学識経験者
7	〃	山城順	職務上	32	〃	野田和人	学識経験者
8	〃	鉄口宗久	職務上				
9	〃	加藤育男	職務上				
10	〃	中野伸彦	大学教員				
11	〃	佐藤快信	大学教員				
12	〃	シヨセフ・ロメロ	大学教員				
13	〃	向敏彦	高校教員				
14	〃	早稲田信衛	高校教員				
15	〃	山口壮一	高校教員				
16	〃	米崎貞博	大学職員				
17	〃	駒庭高明	高校職員				
18	〃	栗林英雄	校友会				
19	〃	市川森一	校友会				
20	〃	北浦定昭	校友会				
21	〃	西嗣也	校友会				
22	〃	木ノ脇悦郎	教役者				
23	〃	森成生	大学保護者				
24	〃	副島修作	高校保護者				
25	〃	野崎一郎	高校保護者				

■ 教職員状況 2010年5月1日現在

鎮西学院本部

区分	職種等	人 員
	理事長(非常勤)	1
	院 長	1
	事務局 長	1
	総 務 課	3
	経 理 課	3 (1)
	管 財 課	(1)
	用務・施設職員	1
	合 計	10(2)

長崎ウエスレヤン大学

区分	職種等	人 員
教育職員	学 長	1
	教 授	17
	准 教 授	7
	講 師	5
	助 教	2
	非 常 勤	68(1)
	合 計	100(1)
事務局	事務局 長	(1)
	参 事	1
	総 務 課	(3)
	企 画 広 報 課	5
	会 計 課	(5)
	教 務 学 生 課	4(1)
	福祉実習教育室	2
	キャリア支援室	1(1)
	留学生支援センター	4
	図 書 館	2
	運行・施設職員	1
	合 計	20(11)
	合 計	120(12)

()内は兼任及び派遣職員で実数に含まず。

鎮西学院高等学校

区分	職種等	人 員
教育職員	校 長	1
	副 校 長	1
	教 頭	1
	教 諭	36
	養 護 教 諭	2
	非 常 勤 講 師	33
	合 計	74
事務・運用用務	事 務 長	1
	庶 務 ・ 経 理 係	5
	司 書	1
	運 行 ・ 施 設 職 員	7
	寮 務 ・ 寮 生 活 指 導 職 員	1
	用 務 ・ 施 設 職 員	1
	合 計	16
	合 計	90

鎮西学院幼稚園

区分	職種等	人 員
教育職員	園 長	1
	主 任	1
	教 諭	4
	合 計	6
事務	運行・施設職員	1
	合 計	7

部 署	人 員
鎮 西 学 院 本 部	10
長 崎 ウ エ ス レ ヤ ン 大 学	120
鎮 西 学 院 高 等 学 校	90
鎮 西 学 院 幼 稚 園	7
合 計	227
合計 (除く非常勤)	126

長崎ウエスレヤン大学 2009 年度 事業報告

I 大学中期経営目標の達成状況

1. 大学中期経営目標の達成状況

計画期間;2007(平成 19)年～2011(平成 20)年度の 5 ヶ年

経費の節減・内部統制に努めるとともに、学生募集力の強化により経営定員を確保し、将来展望を拓くため、資金量の拡大を図る。

【中期経営目標】

年度	財務		学生募集	
	年次目標	達成度	年次目標	達成度
2007	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	プラス 15 人作戦	達成
2008	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	入学者 125 人の見通し	ほぼ 達成
2009	帰属収支差額黒字	未達	入学者 140 人以上が必要	対目標 80%
2010	帰属収支差額黒字		入学者数 150 人以上が必要	対目標 77.3%
2011	消費収支差額黒字		入学定員充足を達成	

2. 中期経営目標を実現するための 5 ヶ年の全学的な目標

- 学生募集力を強化し、入学定員を充足する。
- 学生募集力強化のため、大学の認知度をアップする。
- キャリア支援としての魅力ある教育研究プログラムを充実・強化する。
- 「めんどろみの良さ」の質を維持・向上するため、教育力／学習支援力のスキルアップに組織的に取り組む。

特に、学生募集力の強化にあたっては、日本人学生を倍増し、学部留学生の適正規模化を図るとともに、新たなマーケットとして今後、拡大が期待される社会人の学び直しについて、積極的に対応できるよう、教育プログラムの開発に、年次的に取り組む。

3. 2009 年度目標の達成状況

財務目標;「帰属収支差額黒字」

引き続き、支出の抑制に努め、資金量の減少の食い止めに取り組んだが(消費支出合計前年度 99%)、学納金収入が減少したため、帰属収支差額は△97,000 千円となった。

※中期経営計画は日本私立学校振興・共済事業団の私立大学等経常費補助金特別補助「未来経営戦略推進経費」として採択。2007 年度～2011 年度の 5 ヶ年、毎年 1,000 万円程度交付。2010 年度は進捗状況について中間評価が行われる。

II. 教育研究分野

1. 経済政策学科の設置届出

地域づくり学科の改組転換による経済学分野の学科の設置を検討。大学設置・学校法人審議会大学部会運営委員会の事前相談の結果、「経済政策学科」の設置届出を行った。

学科名称； 経済政策学科（英語名称 Department of Political Economics）

学位名称； 学士(経済政策学)（英語名称 Bachelor of Arts in Political Economics）

収容定員； 290人（入学定員 70人 3年次編入学定員 5人）

開設年度； 2010(平成 22)年 4月 1日

（3年次編入学については、2013(平成 25)年度より）

また、社会福祉学科の収容定員変更(定員減)を併せて行った。

収容定員減計画(2010年4月1日施行)

	変更前	変更後
入学定員	80人	50人
3年次編入学定員	5人	3人
収容定員	330人	206人

2. 文部科学省 平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業(テーマ B)採択事業

キャリア支援プログラムについて、標記の文科省補助事業に採択された。

補助事業名；「多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制」

補助金額；11,000 千円

補助期間；2009 年度～2010 年度

2009 年度の成果；

- ① eラーニング環境の整備・・・学習管理システム Moodle、eポートフォリオシステムを導入。学生用 PC をキャリア支援室へ設置、無線 LAN の整備により、eラーニングはもちろん求人情報へのエントリーや情報収集を円滑に行うことができるようになった。
- ② 就職対策緊急プログラム・・・外部専門機関との連携による「就活力養成講座」を開催。のべ 69 人の学生が受講し、基礎的なキャリア形成に関する講義から、ワークショップ形式による社会人基礎力養成プログラムまで、実践的なプログラムにより、進路実現に向かう態度が向上した。
- ③ FD・SD 研修会により、キャリア支援に関する個人および組織的連携への基本的な態度、eラーニングによる先進的な個別学習支援の方法等に関する知見を得た。
- ④ 同志社大学開発「大学生調査 JCIRP2009」実施・・・全学生を対象に、同調査を実施。キャリア教育を中心とした教育課程・教育方法の見直し・強化の基礎データを得た。
- ⑤ 卒業生ネットワーク形成・・・「福祉実践研究セミナー」を開催。日本の代表的な福祉人(阿部志郎先生)を講師に招聘。卒業生及び在学生のソーシャルワーカーとして視野を広めるとともに、学習ネットワークを形成する契機となった。
- ⑥ キャリア教育に関する先進事例調査・・・JASSO 主催の意見交換会をはじめ大学改革に関する具体的な取組についての情報収集を行い、本学の大学改革へ活かすヒントを得た。

3. キリスト教主義人格教育関連事業報告

1) ピースアワーや学内外での様々なチャペル活動

4月～1月の学期中、毎週水曜日 10:30～11:00 にピースアワーを実施した。建学の精神や学院の歴史、留学や福祉実習等の様々な学生の活動報告の場とした。

この他、クリスマス礼拝やカネミ油症問題・長崎大集会の主催等の活動を行った。

2) 学生の動機付けのためのアクティビティの実施・課外活動の支援

学生の主体的参加・参画態度の動機付けやリーダーシップと母校愛を醸成するため、新入生交流会やメンタルヘルスケア、課外活動の支援、May Fiesta 等による異文化理解プログラムを実施した。

- ① 新入生交流会・・・学部新入生・交換留学生・日本語教育プログラム生を対象として、「学生相互や教職員との交流」をテーマに4月18日に「いこいの村長崎」にて開催。
- ② メンタルヘルスケア・・・学生相談室にカウンセラー(非常勤)2人を配置。学生委員会のもとにメンタルヘルスケア委員会を設置し、学生相談室の利用状況、ケアの必要な学生への対応など、冬期FD研修会においては発達障害を有する学生への対応方法などについて再度理解を深めた。
- ③ 課外活動の支援・・・学外施設使用料補助、各体育部の遠征費の補助、引率を実施。また、優秀な成績を収めた各クラブの合同祝勝会を後援会と共催で実施した。

<体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部(男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(長崎)	5部1位 4部昇格
	九州大学秋季バレーボールリーグ(福岡)	4部1位 3部昇格
	九州バレーボール選手権大会(福岡)	1勝2敗
バレーボール部(女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(佐賀)	7部3位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(熊本)	7部4位
卓球部(男子)	全九州春季卓球大会(熊本)	4部4位
	全九州秋季卓球大会(福岡)	4部5位
卓球部(女子)	全九州春季卓球大会(熊本)	3部1位 2部昇格
	全九州秋季卓球大会(福岡) 2部4位	女子シングルス9位 石原律子
		女子シングルス九州年間ランキング14位 石原律子
卓球部(女子)	全日本学生卓球選手権大会(横浜)	石原律子出場
	3地区(九州・中国・四国)卓球選手権大会(広島)	石原律子出場

卓球部(女子)	全九州新人卓球大会(福岡)	女子ダブルス3位 石原・荒木組
	全九州卓球選手権大会(沖縄)	石原律子出場
テニス部	全九州学生夏季テニス選手権大会	男子シングルスベスト16 鍋内哲朗
	県央テニストーナメント	準優勝 鍋内・岡部組
	第129回市長杯テニストーナメント大会	準優勝 鍋内哲朗
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 阿蘇	3位
	Exciting Baseball トーナメント in 青島	7位
バドミントン部	全九州学生バドミントン大会	女子シングルスB優勝 中島明日香
		男子シングルスAベスト32 永田竜之介
	長崎県学生バドミントン選手権大会	男子ダブルス3位 永田・池田組

④ May Fiesta 等の異文化理解プログラム・・・May Fiesta、国際フォーラム等の異文化理解プログラムを、留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5月16日開催。本学留学生による各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
- International Café・・・06年度より実施しているが、09年度は毎月1回火曜日の夕方に開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- 留学生の祭典・・・7月24日開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
- International Talk show, Speech Contest・・・11～12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
- English Boot Camp・・・8月と2月に実施。Reading, Speaking, そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

3) 障害学生の受入れ

障害学生の支援体制の整備に引き続き取り組んだ。特に聴覚障害学生のためのノートテイクを始めとするスタディ・サポーターの養成を行い、障害学生からの申請に応じる支援体制の整備を継続して行った。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0人	3人	0人	3人

全介助学生が2人入学。そのため、介助支援員を学期中常時2人雇用した。

4) 退学・除籍者

09年度の退学・除籍者は48人となり、08年度より13人増加している。

48人のうち、22人が学費未納による除籍、退学者26名の内訳は、「進路変更(進学・他大学への編入)の為」12人、「修学意欲の喪失」5人、「就職」6人、その他の理由は「健康上の理由」、「経済上の事情」であった。

		1年		2年		3年		4年		計		総計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
2009	退学	4	11	0	5	0	1	0	5	4	22	26
	除籍	2	3	4	2	7	1	2	1	15	7	22
2008	退学	2	7	4	10	2	0	2	5	10	22	32
	除籍	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	3
2007	退学	4	3	3	4	1	2	2	2	10	11	21
	除籍	0	2	0	1	0	1	0	2	0	6	6

4. オンリーワンの即戦力養成プログラムへの取組

06年度より、学生のライフデザインに基づく総合的キャリア支援教育プロジェクトとして、全学的に取り組んでいる。2007年度は、1・2年次の全学教育科目を見直し、社会人基礎力を養成するため、「大学入門」「基礎演習」「コミュニティサービス」等の科目内容の見直しを行った。2008年度は更に、基礎学力の強化に取り組み、入学者全員にプレースメントテストを実施し、一定の成績に達しない者に対して「社会人基礎学力講座」の受講を義務付けた。

1) 09年度卒業生の進路決定状況

- 卒業生の就職決定率 72.9%(5月1日現在)
 就職決定者 43人(男性18人 女性25人) 決定率72.9%
 (内訳) 一般企業 21人 (県内10人 県外11人)
 福祉関係 22人 (県内20人 県外2人)
 就職希望者 59人(男性26人 女性33人)
 (内訳) 一般企業希望者 32人
 福祉関係希望者 27人
 県内就職希望者 42人
 県外就職希望者 17人

- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
 社会福祉士 合格率20.0%(27.5%)
 精神保健福祉士 合格率14.3%(63.3%)

2) 卒業生の質保証としてのキャリアアップ支援

- 公務員対策講座・・・受講希望者少数のため実施できなかった。
 - 情報処理検定・・・06年度から検定料の補助を実施。
 - 日商PC検定(文書作成) 3級 10名合格(37名受験)・同2級 0名合格(2名受験)
 - Excel検定 3級 20名合格(35名受験)・同2級 合格2名(4名受験)
 - 英語教育
 - 英検・・・6月 13名受験 3級 0名合格(1名受験)
準2級 0名合格(1名受験)
2級 2名合格(8名受験)
準1級 0名合格(3名受験)
- TOEIC(IP)・・・7月・12月 2回実施
受験者数:63名(昨年度63名)
最高スコア:945点、最低スコア:210点
- 実用中国語検定 4級 0名合格(1名受験)・同3級 1名合格(1名受験)
 - 日商簿記3級検定対策講座 5～6月、10月～2月実施 2回の受験合計 1名合格(8名受験)
 - 漢字検定・・・6月・11月 2回実施
 - 4級 1名合格(1名受験)
 - 3級 5名合格(18名受験)
 - 準2級 10名合格(28名受験)
 - 2級 0名合格(15名受験)

3) 学生と指導教員の協働によるキャリア形成

- 4年生(88名)を対象に4月13～22日に個人面談を実施。5月12～29日には3年生(72名)を対象に面談を実施した。後期に入ると、就職活動が遅れている4年生を集中的に面談し、活動を促した。
- キャリア形成ハンドブック使用の拡充・・・大学入門・基礎演習・就職基礎・就職ガイダンス等におけるキャリアハンドブックの効果的活用が不十分だった。
※キャリアハンドブック・・・学生のライフデザインと希望職種にそった四年間の学習計画、在学中の取得目標資格等、学生がゼミ担当教員との協働により主体的に作成するワークブックを発行する。このワークブックには併せて、社会人・職業意識の涵養に必要な知識や心構えを盛り込む。このワークブックを通して、学生の学習進度の自己評価をもとに、総合的な修学指導を行う。
- キャリア支援センターとゼミ担当教員の連携・・・「基礎演習Ⅰ」において、キャリア支援室ツアーを実施。全部のゼミ(9ゼミ)の学生が参加。キャリア支援室の利用法やパソコンによる適職診断・キャリアの観点から4年間で行うべきことのレクチャー等を行った。

4) 社会人になるための導入教育の強化

- 入学前教育の強化・・・推薦入試、AO入試による入学決定者を対象とした入学前教育を強化し入学後の導入教育への接続を図っている。
特に経済政策学科では、入学決定後から入学までのほぼ毎月、課題図書に関する作文等の提出を呼びかけた。また、入学後、 Semester毎に基礎学力プレースメントテストを実施している。

- 「大学入門」でのキャリア教育強化・・・1 年次生必修科目である「大学入門」の中で四年間のキャリア支援プログラムの説明、一般職業適性検査の実施、そのフォローガイダンスを行った。
- 「就職基礎」の効果・・・昨年度に引き続き2 年次生対象に「就職基礎」を開講。全 15 コマをキャリア支援センター長・キャリア支援室中心に、外部講師や多くの教員を取り込んで実施した。受講生 96 名、出席率は常時 80%台と高かった。
特にグループディスカッションや報告会等コミュニケーション能力の向上に重点を置いた内容とした。また、評価を評価票(感想レポート)により行い、添削指導した結果、明らかに文章力改善が見られた。学生の感想でも、自分の欠点が分かり改善できたとの感想が多数あった。
- 就職ガイダンスのプログラム強化・・・3 年次生を対象とした「就職ガイダンス」のプログラムを強化するとともに専門演習との連携を図り、特に重要な回(企業人事担当者の話)では就職希望学生の出席を促したが 6 割程度の出席率であった。

5) 学びの基本は体験主義ーボランティアからインターンシップまで

- インターンシップ・プログラムの強化・・・参加学生は、昨年度の5名から15名に増加した。15名の内訳は、全て3年生で、学科別では社会福祉学科6名・地域づくり学科5名・国際交流学科4名であった。高い評価を受け自信を持つ学生や、客観的評価を受けて自身を改めて考える学生が見られ、効果は大きかった。今後も一般企業に就職を希望する学生をより多く派遣したい。また、日本企業への就職を希望する留学生についても、日本企業の考え方を理解させるため積極的に参加させたい。

	派遣者数(人)	派遣箇所数
2009	15	12
2008	5	4
2007	22	20

- コミュニティサービスプログラム派遣状況
＜コミュニティ・サービス I (1・2 年対象)＞

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員(上限)	受講数
1	祭りと文化	御館山神社	渡辺勝義	通年	10	15
2	留学生の日本語学習支援	長崎ウエスレヤン大学	胡振剛・高山乾忠	前期	15	18
3	国際交流イン新地中華街	新地中華街	兪稔生	通年	6	6
計					31	39

<コミュニティ・サービスⅠ・Ⅱ(全学年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員(上限)	受講数
1	高等学校への福祉教育支援プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学 長崎福祉教育研究会	中野伸彦	通年	8	5
2	生徒児童支援プログラム	金原研究室	金原俊輔	通年	5	10
3	コミュニティサービス・チャペルⅠ・Ⅱ	ピースチャペル	山城順	通年	10	6
4	のんご諫早まつり	のんご諫早まつり実行委員会	亘明志	4月 ～10月	10	8
5	こどもの城ブレイダー事業	こどもの城	入江詩子・菅原良子	通年	5	5
6	日本語学習サポートプログラム	インターナショナルカフェ(A-302)	ロメロ・有門	後期	8	8
7	日本語教育プログラム	長崎ウエスレヤン大学	大里泰弘	通年	10	7
8	メンタルフレンドプログラムⅠ・Ⅱ	諫早少年センターふれあい学級 (諫早市東小路町)	内村公義	通年	10	3
9	スペシャルオリンピックス	スペシャルオリンピックス長崎、主に諫早運動公園	内村公義	前期	15	13
10	離島活性化活動支援	長崎市伊王島	鈴木勇次	通年	10	6
11	スタディサポート	長崎県立こども医療福祉センター	太田勝代 菅原良子・開浩一	通年	8	0
12	学童保育支援	ほくしょうクラブ(諫早市金谷町)他	開浩一	前期	9	4
13	まちの魅力発見CS	永昌東商店街組合事務所他	藤崎亮一	通年	5	0
14	まち研で地域支援	まちづくり研究室	佐藤快信	通年	20	0
15	日本語談話室	長崎ウエスレヤン大学	齊藤 仁志	通年	20	12
計					153	87

<コミュニティ・サービスⅡ(3・4年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員(上限)	計
1	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支援	山口弘幸	通年	8	7

6) GPA 制度を核とした責任ある教育体制の整備

開学時より導入している GPA (Grade Point Average) 制度により、全体的な学力を評価する指標として GPA を修学指導、特待生継続資格判定において活用している。

<2009 年度累積 GPA 学年別平均>

学年	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2.34	2.01	2.29	2.19
最高	3.84	3.49	3.79	3.63
最低	0.40	0.10	0.50	0.30

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に 4 年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者

4 年生 2 人(累積 GPA3.6 取得単位数 185 単位)

(累積 GPA3.6 取得単位数 205 単位)

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1 年	2 年	3 年	4 年
1 人	7 人	4 人	6 人

7) カリキュラム改革と教育力の向上への取り組み

各学科の完成年度を迎え、新たなコースの設置と教育学習到達目標を明確にするため検討を行った。検討成果は、2009 年度より講義概要の巻末に「四年間の学習のめやす」として掲載している。

経済政策学科の設置に伴い、全学教育科目を見直し、キャリア教育に対応した科目編成を行った。また、きめの細かい修学支援を行うため、e ポートフォリオを開発、導入した。

そして引き続き、基礎学力や日本語能力の不足する学生・留学生等、特別な支援を必要とする学生のための学習支援体制の強化のため、FD 研修会を開催した。

5. 国際交流関連事業報告

国際交流プログラムの安定的な質的・量的確保のため、海外提携校の更なる開発を行うとともに、特にアジア地域における私費留学生の確保の拠点とした。

その結果、09 年度入学者は 1 年次 54 人 編入学生 2 人 計 56 人を獲得できた。

また、新たな留学生獲得戦略として、二重学位制度による 3 年次編入プログラム及び秋学期入学制度(留学生のみ)を導入することとなった。また、(中国広東省)広東外語外貿大学南国商学院と新たな交流協定を締結した。

<交換留学生の派遣・招致状況>

国	協定校名	期間	前期		後期	
			派遣 (人)	招致 (人)	派遣 (人)	招致 (人)
フィリピン	University of BAGUIO	一年		2		(2)
タイ	College of Asian Schools	一年		2		(2)
	Phon Commercial and Technical Collge	一年		2		(2)
ブラジル	University Methodist of Piracicaba	一年		2		(2)
カナダ	University of Fraser Valley	一年		0		1
	Thompson Rivers University	一年		0		0
	Bow Valley College	一年		0		0
中国	天津師範大学	一年		2		(2)
台湾	長榮大学	一年・半年		2		(2)
韓国	大邱大学校	一年		2		(2)
	慶南情報大学	半年		2	1	1
	慶北科学大学	一年		1		(1)
	仁徳大学	一年・半年		2		(1)※1
計			0	19	1	2

※1 韓国・仁徳大学のうち1名は前期途中にて受講取消

・前期は5/1付、後期は10/1付

・後期()内は前期から継続して在籍した人数

<海外スタディツアー・コミュニティサービス派遣状況>

研修地	期間	派遣数(人)
カンボジア・タイスタディツアー	09.8.17-31	4
タイ・パヤオ CSP	実施せず	—
タイ・コンケン CSP	10.2.25-3.6	4
フィリピン OP (OP: Outreach Program)	10.2.22-3.1	5

<留学生数(学年別・国籍別)>

	中国	韓国	タイ	ブラジル	台湾	フィリピン	ベトナム	ロシア	合計
1年生	35	7	4	2	2	3	1	0	54
うち交換	2	7	4	2	2	2	0	0	19
2年生	43	0	0	0	0	0	0	0	43
3年生	33	1	0	0	0	1	0	0	35
4年生	12	1	0	0	0	0	0	0	13
日プロ履修生	34	1	0	0	1	0	6	1	43
合計	157	10	4	2	3	4	7	1	188

6. 地域連携関連事業報告

教育研究の実践それ自体をコミュニティサービスとして位置づけ、大学と地域社会との共生、資源の還元と循環を通して「大学の地域化」と「地域の大学化」を図るため、以下の事業を実施。

1) 公開講座の開催状況

- NICE キャンパス コーディネイト科目「地域資源の再発見と利活用」全 15 回
実施時期;2009 年 10 月 2 日～2010 年 2 月 5 日 毎週金曜 18:00～19:30 開催
一般市民受講者数;のべ 387 人
- 諫早市子育て支援サポーター養成講座 全 4 回
実施時期;2009 年 11 月 26 日・12 月 10 日・2010 年 1 月 14 日・2 月 4 日
一般市民受講者数;30 人
- 諫早・大村 生と死を考える会

2) 科目等履修生の受入状況

前期・後期 計 43 名

(スピリチュアルケア概論、スピリチュアルケア技術論 I・II、スピーキング、手話、死生学等)

2009 年度より新たにスピリチュアルケアコース科目等履修生受入れ開始(前期 29 人・後期 30 人受講)。

※日本語教育プログラム受講生を除く。

3) 社会人の受入状況(2009 年 3 月 31 日付)

1 年	2 年	3 年	4 年	計
0 人	1 人	2 人	5 人	8 人

4) 受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
小値賀町地域づくり推進事業	小値賀町	1,000 千円
子育て支援サポーター養成講座	諫早市	600 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
ベトナム人技術研修生における日本での共生共働支援に関する受託研究	ベトナム運輸省海外人材開発公社	330 千円
計		1,930 千円

7. まちづくり工房の運営

06 年度より、諫早市との連携により、中心市街地商店街協同組合が建設した複合商業施設「アエルいさはや」内に設置の「まちづくり工房」の企画・運営を行い、教育・福祉・保健・医療等の総合的ネットワークの拠点づくりに取り組んだ。

8. 高大連携関連事業報告

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

1) 第12回高校生福祉フォーラム

11月22日開催。参加状況；189人(うち高校生80人・高校教員14人)

高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生10団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。

第2部は、衆議院議員の福田衣里子さんによる講演(テーマ「今、私たちにできること、すべきこと」)及び、高校生平和大使(高校生1万人署名実行委員会)による活動報告とトークライブを開催。

2) 異文化理解プログラム

国際交流学科の主催により、May Fiesta、International Café、International Forum、Speech Contest などの異文化理解プログラムを年間を通じて開催。多数の高校生が参加した。

3) 第7回九州地区福祉系高校教員研究セミナー

11月21日開催。文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え実施。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加。介護福祉士制度の改正等、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。

4) 高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」において、テニス部とバレー部を対象に実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。

5) 鎮西学院高等学校との連携

高大連携教育室を設置し、学院内進学者の入学後の修学状況について、高校の先生方と連携し、報告会を実施した。

また、生徒向けオープンキャンパス5回、「福祉基礎講座」として2年生対象に「福祉基礎Ⅰ」全10回(受講生31人)、3年生対象に「福祉基礎Ⅱ」全18回(受講生18人)を開催。この「福祉基礎講座」受講生のうち7人の学生が、2010年度入試において社会福祉学科(5人)と経済政策学科(2人)へそれぞれ合格した。

また、保護者対象のキャンパスツアーや進学説明会を開催し、連携を深めた。

9. 学術研究の振興関連事業報告

1) 個人研究費の配分状況

09年度の個人研究費については、財務逼迫の折、08年度と同様一律200千円の配分となった。

2) 共同研究費の配分状況

地域総合研究所共同研究費は採択制により配分されるが、09年度の採択制の共同研究費は総額3,500千円(うち半額相当額は事業団特別補助の交付を受けた)。

採択された研究課題は次のとおり。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
草野洋介	教授	地域住民の葉酸摂取が動脈硬化に与える影響
齊藤仁志	講師	接触場面における日本語母語話者の発話について －多文化共生社会の言語運用を考える－
村上清	准教授	わが国における福祉政策の歴史的変遷
金文華	講師	日・中・韓の大学における障害学生の支援に関する比較研究
亘明志	教授	戦後補償運動をめぐる日韓の歴史認識とナショナリズム
佐藤快信	教授	明治期における宣教師による社会開発の意義について －外海町ド・ロ神父を事例に－
藤崎亮一	講師	島嶼部における商店街の実態調査
斐 瑠俊	准教授	社会福祉協議会の運営管理を中心にした評価手法及び評価尺度の開発研究 －社会福祉協議会版バランススコアカードを使うパイロット研究の継続
入江詩子	准教授	S-HTP法によるタイ都市部と周辺部の子育て環境と子どもの心の発達に関連に関する研究
中野伸彦	教授	新カリキュラムに対応したソーシャルワーク実践事例の活用法に関する研究
鈴木勇次	教授	離島地域における市町村合併と離島の自立

3) 科学研究費補助金の獲得状況

09年度の科学研究費補助金は、研究分担金が3件、新規採択は1件であった。

また、2010年度の科研費申請件数は3件であった。

Ⅲ. 学生募集における重点施策

09 年度も全教職員の連帯と協働をいま一度結集し、入学定員 160 名の確保に臨んだ。

<2010 年度入学者数>

	定員	出願者		合格者		入学者		
		国内	外国人	国内	外国人	国内	外国人	合計
社会福祉 (昨年度)	50 (80)	41 (41)	0 (3)	41 (40)	0 (3)	31 (38)	0 (3)	31 (41)
経済政策 (昨年度)	70 (40)	50 (13)	4 (2)	49 (13)	4 (1)	33 (10)	3 (1)	36 (11)
国際交流 (昨年度)	40 (40)	10 (15)	42 (61)	10 (15)	42 (57)	7 (10)	42 (50)	49 (60)
合計 (昨年度)	160 (160)	101 (69)	46 (66)	100 (68)	46 (61)	71 (58)	45 (54)	116 (112)

<2010 年度入学者 出身県別>

	10 年度	09 年度	08 年度		10 年度	09 年度	08 年度
鎮西学院高校	25	24	30	熊本	2	1	0
長崎市内	18	8	16	大分	0	0	1
諫早・大村・島原	17	12	13	宮崎	0	0	1
その他	5	5	1	鹿児島	2	1	1
県内小計	65	49	60	沖縄	0	4	3
除く鎮西学院	40	25	30	その他	46	57	3
福岡	0	0	2	計	115	112	71
佐賀	0	0	0	除く鎮西学院	90	88	41

1. 募集活動の重点施策

高校訪問数はのべ 1173 校(前年 1045 校)。特に運動部所属生徒及び顧問 への積極的な広報活動を始め、信頼感と密度の高い訪問を実施。

進学説明会は、89 カ所参加。来訪者 124 人(3 年生)のうち 11 人が出願した。

オープンキャンパスは年 3 回(5 月・7 月・8 月)実施。結果、高校生 268 名が参加、うち出願者 9 名となった。第 3 回は経済政策学科開設記念イベントとして「森永卓郎」講演会を開催。一般市民・高校生を中心に西山ホールが満員となる盛況であった。

しかし、進学校でない高校の早期進路決定、進学校の夏休みの多忙さにより動員が厳しく、今後オープンキャンパスの前倒しなどが必要である。

また、2009 年度は新しい試みとして KTN 映画招待試写会を 2 回主催(10 月・3 月)。本学の認知度アップとともに、新学科の周知に大きな力となった。動員数は計 2 回で 592 人。

鎮西学院高等学校 2009年度事業報告

校長 川村 正徳

1 教育の充実

(1) 建学の精神である「キリスト教人格教育」の推進

- ・2009年度目標聖句「私たちは目に見えるものではなく、目にみえないものに目を注ぐ。」が与えられ、神の存在など目に見えない大切なものに思いを寄せることを礼拝や宗教行事を通して、学ぶことができた。
- ・諫早市民クリスマス、吹奏楽部やコーラス部による教会や施設への奉仕活動を通じて、鎮西学院の教育をアピールすることができた。
- ・「生徒第1主義」を掲げ、生徒一人ひとりを神から預かった大切な存在として扱うよう努力した。
- ・「知育、徳育、体育」に力を注ぎ、バランスのとれた教育を行うように務めた。

(2) キリスト教教育

- ・毎日の礼拝、物故職員記念礼拝、1年生夏期修養会（2泊3日、雲仙）、平和祈念礼拝（林田秀彦学院長）を実施することにより、学院の建学の精神を深く心に刻む機会とすることができた。
- ・原爆慰霊碑建立（8月9日）を通して、本学院の苦難の歴史と平和の尊さを学び、現在の学院が多くの犠牲の上に成り立っていることを再確認することができた。
- ・教師修養会（1泊2日、講師：梅光女学院前院長 峠口 新先生）において、「歴史を創る担い手となろう」と題してキリスト教学校の使命について学びを深めることができた。

(3) 国際交流

- ・姉妹校であるカナダのアップルビーカレッジとの交換留学、ロータリークラブとの連携によるホームステイの実施、シンガポール・マレーシアへの修学旅行やイギリスでのホームステイを通して、異文化を体験し、その理解を深める機会をもつことができた。
- ・イングリッシュバイブルクラブの充実を図ることにより、語学力の向上や聖書に対する理解を深めることができた。

(4) 学校力強化

- ・教育活動全般の取り組みの改善と充実を図るため実施した学校評価、授業評価の結果は、宗教教育やスポーツ活動、学校生活などでは高い評価であったが、学力の低い生徒や不登校の生徒に対しては、さらにきめ細かな指導の必要性を感じた。
- ・2週間の授業公開週間を設定し、教師同士のよい研究機会とすることができた。今後も、さらに開かれた学校作りを目指して努力していきたい。

- ・キリスト教学校同盟主催の各種研修会、カウンセラー研修会、進学指導研修会（予備校での研修を含む）には積極的に参加するよう務めた。

(5) 学習指導・進路指導の充実

・進学支援

進学説明会や各大学の入試説明会に積極的に参加するためのプログラムを計画した。また、授業の充実を図ったり、早朝・放課後補習や夏期雲仙学習合宿の強化、予備校を活用し教員の進学指導力向上を図り進学率向上に努めた。

京都大学（工・建築）1名、広島大学1名、長崎大学3名等国公立大学21名合格、私立大学は青山学院大学1名、西南学院大学3名等137名合格。

・就職支援

国家公務員Ⅲ種1名、長崎県警3名、大村市役所1名はじめ公務員28名（自衛官20名含む）合格。就職率は94%の達成率であった。

(6) 生徒指導

- ・「挨拶日本一」を掲げ、生徒・教職員一丸となって取り組んできた。
- ・携帯電話による事故や事件が多発していることから、本校では携帯電話の所持を禁止とし、携帯電話による「いじめ」根絶に取り組んできた。
- ・基本的な生活習慣（制服の着こなし、積極的な清掃活動への取り組み、遅刻や欠席の減少）の徹底を図るなど規範意識の向上に努めた。

(7) 校友会と協力、PTAとの連携

- ・鎮西学院生としての誇りを持たせることを目的に、校友の方々から講話をしていただく機会を設けた。西 嗣也氏には原爆被災当時の学院について、川本 善英氏には社会人としての心構えについてご講演いただいた。
- ・PTAの協力を得て、地区懇談会（9月、7地区）を実施し、学校からの協力要請をしたり、保護者からの要望を聞く機会を持つことができた。お出しいただいたご意見等に対する回答は12月に行った。

2 2009（平成21）年度ながさき私学魅力アップ事業報告

昨年度、次の5つの事業を3年計画で計画した。なお、この事業は長崎県総務部学事文書課により承認され、補助金300万円（補助金満額）を得ることができた。

(1) 商業科スペシャリスト育成講座

情報分野において、ITパスポート、日商簿記2級、電卓・ワープロ段位・1級の合格者を出す為に、外部講師と本校教師による延べ146時間の特別講座を開講した。電卓・ワープロ段位・1級では9名の合格者を出すことができたものの、ITパスポート、日商簿記2級では合格者を出すことができなかった。より多くの講座開設の確保が課題である。

(2) 普通科一般進学コース・商業科基礎学力向上対策

普通科一般進学コースおよび商業科の生徒の基礎学力向上の為に、スタディサポートテスト及び進路マップテストを年2回実施し、その結果を受けて2者面談、居残り学習会等を実施した。また生徒の学力向上のノウハウを学ぶ為、福岡と京都の先進校視察を行った。普通科一般進学コースにおいては50%以上の生徒が学力アップし、ほぼ目標を達成できたが、商業科では学力アップした生徒が30%強にとどまった為、目標達成とはいかなかった。2010年度は、補習時間を45分から60分に、また「ナイトゼミナール」を開講する等により生徒の学力向上を図りたい。監督者の確保、教員の一致協力がポイントである。

(3) 公務員合格対策講座

公務員合格者を出す為に、専門の講師を招き週2回90分の講座を開講した。

また情報収集の為に本校担当教師が公務員セミナー等に参加した。

一般公務員一次合格者は延べ3名、自衛官採用名簿記載者延べ20名の合格者を出すことができた。公務員合格への道はますます狭き門になっており、如何に演習時間を確保するかが今後の課題である。

(4) 国公立大学進学コースポテンシャルティプラン

超難関国公立大学（東京大学・京都大学）及び九州大学の合格者を出す為に、本校専任教師が週2回90分の特別強化授業・演習を行い、また夏休みなどの長期休暇中に予備校講師や大学生を招いて特別の講座を開講した。また本校教師進学指導力アップの為に、予備校が開講しているセミナーに延べ10名の本校教師が参加した。（東京、京都、大阪、福岡）結果、京都大学工学部に現役合格者を出すことができた。セミナーに参加し身につけたスキルを生徒にフィードバックしていけるか、また本校専任教師による特別授業が20：30までの学習となる為、保護者の協力が不可欠であるが、協力が得られなかったことが今後の課題である。

(5) 普通科一般進学コース講座制授業

普通科一般進学コースの進学率アップの為に、長崎ウエスレヤン大学との高大連携により、3年生については月曜日に、2年生については土曜日に、講座制授業（保育、音楽、福祉）を実施した。なお、長崎ウエスレヤン大学社会福祉学科に進学した生徒については、入学後福祉基礎Ⅰの単位を認めることになっている。進学実績は74.4%でほぼ目標を達成したが、保育・音楽に関しては8名中2名であったので、この分野については、講座制授業が完全に活かされたとはいえなかった。今後の課題である。

3 生徒募集対策

(1) 入学者300名（学則定員）の確保

従来通り学則定員300名の確保を目指して募集活動を展開してきた。その結果、受験者は1,722名（前年比-37名）で実入学者は298名と定員にわずかながら及ばなかった。「キリスト教による人格教育」、「進学・就職実績」「面倒見のよさ」、「クラブ活動の充実」を宣伝の柱としてきめ細かな募集活動を展開していく。とくに、推薦入学者の減少を食い止めなければならない。

(2) 入試関係事務処理の効率化

パートタイマーを採用することにより、入試事務の効率化を図ることができた。

(3) 諫早・大村地区等近隣中学校訪問の徹底

地元の諫早・大村地区中学校から多くの受験者を得ることができた。今後も中学校との良好な信頼関係を築いていくことが大切である。

(4) 長崎地区・離島地区・県外の受験者、実入学者の増加を図る

・長崎地区からの通学生は吹奏楽部などクラブ関係者がほとんどであるが、スクールバス長崎線の増強により、本校の認知度も少しずつ高まってきつつある。

・離島（対馬地区）の募集体制が定着化し、受験者が32名で、実入学者は9名（昨年比+2名）であった。今後は五島地区からの受験者の増加を図りたい。

(5) 塾対策

塾に対しては、進路指導体制のあり方や進学実績をPRの材料として、粘り強い募集活動が必要である。

(6) オープンキャンパスの充実

年3回7月（一般生対象）8月（クラブ活動1日体験）、11月（入試対策）実施し、参加者は1,242名（昨年比+19名）であった。さらに中学生にとって魅力あるオープンキャンパスを計画する必要がある。

4 施設・設備整備実績

(1) ロング寮の空調機整備

老朽化（設置後18年が経過）により不具合が多発していた空調設備を7月に新機種と入れ替え、寮生の生活改善を図った。

(2) 職員室・保健室空調機整備

老朽化（設置後20年が経過）により8機のファンコイル（室内機）の内4機は全く作動していなかった。7月に全機を新機種と入れ替え、教師の執務環境改善を図った。

(3) 笹森卯一郎記念体育館1階のトイレ増設

体育館や陸上グラウンドで大会等開催された場合、既存のトイレ数では十分に対応できなかった為、8月に改造工事を行いトイレ数を増やした。また新規に身障者用トイレも整備した。

【改造前】 男子：和式大便器1、小便器2

女子：和式大便器2

【改造後】 男子：和式大便器1、洋式トイレ1、小便器4

女子：和式大便器2、洋式トイレ2

身障者用トイレ1

(4) 笹森卯一郎記念体育館2階のブラインド取替え

老朽化により破損が著しかった為、8月にロールカーテンに取換え、教育環境の充実を図った。

(5) 第2体育館解体工事

旧海軍航空隊格納庫の鉄骨を利用して建築されたもので50年以上経過していた。老朽化が著しく、外観、安全面、耐震のいずれをとっても問題があった為、11月に解体工事を行った。

(6) 野球グラウンド内野整備

排水が非常に悪かった為、一旦雨が降るとグラウンドでの練習がなかなかできず、練習に支障をきたしていた。3月に内野の排水工事を行い、表土として黒土混合土を入れ練習環境の改善を図った。

2009年度 幼稚園事業報告書

教育における重点目標

1、保育のこころ（保育目標）

- ① 幼児教育は、人生の土台（人間形成）を育む、大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。
- ② キリスト教の精神に基づき、人を思いやり愛のことばで子ども達の心を温め合い、優しさや慈しみの心を育み、一人ひとりの持っている個性を大事にし、毎朝子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせることができた。
- ③ 宗教行事の礼拝や親子礼拝も、林田学院長、山城大学宗教主事、鉄口高等学校宗教主任、各牧師先生方のご協力を得て実施できた事に感謝する。また、園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。
- ④ 学院を包む広大で緑豊かな自然の中で、感性や創造性を育て、『幼児にとっては遊びが仕事』という理念の下でのびのびと遊び、そこから社会性や協調性が培われ、他者への思いやりいたわりの気持ちも育ってくると信じる。それは、これからやってくる子ども達の人生の中で『生きる力』の礎になると思われる。

2、園児募集対策（保育内容の充実）

園児募集対策の重点施策は基本的に『保育の充実』にある。教師の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開されることを、全教職員が理解し汗をかいて努力してきた。

『園児数の推移』

2001年度	83名
2002年度	93名
2003年度	92名
2004年度	94名
2005年度	80名
2006年度	77名
2007年度	64名
2008年度	72名
2009年度	106名

① キリスト教保育の充実

『保育のこころ』（保育目標）・ピースチャペルでの「親子礼拝」・毎日の「保育室での礼拝」祈りをもって一日をスタートさせることができた。「クリスマス礼拝祝会」等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。今年度クリスマス礼拝祝会は園児数増加に伴い園ホールが手狭になり、大学のご協力をえて西山ホールで開催することができた。保護者からは好評であった。

② 緑豊かな学院全体の活用強化

園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑深き環境が、すべての子ども達の遊び場、探検の場となる。

そこには、子ども達の「心と体」を育む幼稚園だということが、保育や募集に役立っていることが証明された。

③ 外注弁当給食制導入(週1回)

子育て支援の一環として、2008年度4月より希望者制で進めているが、2009年度より一歩進めて年長そら組さんのみ、週1回月曜日全員外注弁当給食方式がスタートできた。2010年度はこの方式を園児全員に移行したく保護者の理解を求め賛同を得る。(特にアレルギー対策は重要)従来の家庭手作り弁当方式及び希望者チケット制は、現状維持である。

④ 未就園児と親子のつどいの推進

保育主任主導で月3回おひさまくらぶ(2歳以上対象)実施。学期毎に1~2回グリーンクラブ(1歳以上対象)。楽しいプログラムは充実しており、参加者の親や子ども達から好評で園児募集には大いに貢献している。

⑤ 行事の充実

キリスト教行事の充実は元より、親子で楽しむ芋うね作り・親子で楽しむ夏のタベ・ふれあい動物広場・親子レクリエーション・院内耐寒マラソンで日本一周(年長)、九州一周(年中)、諫早一周(年少)〈大きな日本地図を作り、塗りつぶしていき走破した達成感を味わわせる。1~2月下旬〉。今年度より新たに高校との合同街頭募金活動を実施することができた。(年長組のみ)降誕劇を栄田町老人会のみなさんに披露し理解を深める活動と位置付けしていたが、残念ながら実現できなかった。

⑥ 預かり保育の時間延長

子育て支援の一環として、2008年度より18:30までとした。口コミで仕事をしておられるお母さん方へ伝わり徐々に増えお母さん方から喜ばれている。

⑦ 園長体操教室の取り組み

他園には真似できない園長体操教室。男性園長が実施することに意義があるようだ。

子ども達の喜びが大きく保護者にも好評なので、今後も先生方と相談しながら実施したい。

今年度は低調だったことに反省。

⑧ インターネットによるブログの充実

ホームページにブログを開設し、4~5日置きに更新している。保護者や一般の方が子ども達の生活を見られている。また、入園時期の幼稚園選びの一助にもなっており力を注いでいきたい。

⑨ ミニ講演会やミニ公演会の取り組み

食育や子育てに役立つ話や演奏会をお母さん方に発信し、文化面の活動も実施できた。
(子育て支援講演会・きらきらくらぶ食育講演会・ティンカーベルズ演奏会・アンサンブルレネット音楽会等)

⑩ 高校吹奏楽部による『森の園庭♪演奏会♪』の推進

優れた生演奏を聞かせることで、芸術との出会いがあり、それによって感性や創造性心豊かなものを育てられるものと感じる。子ども達の時代に芸術の種をまいて、5年後、10年後に大きな花を咲かせて、心身共に豊かに育てほしいと願う。このような演奏会は本園にしか出来ない文化活動である。しかし、今年度も不発で残念である。

⑪ 国際交流会の活動推進

大学・高校の留学生を幼稚園に招き、各国の紹介や歌等で交流を深めたい。このプログラムは今年度は実現していない。是非とも実現させたい保育である。

⑫ 制服の完全変更への取り組み

検討した結果2010年度幼稚園創立55周年記念に合わせて完成し、新入園児より着用にごзつけた。

⑬ パパの会の活動強化

ボランティア活動やスポーツ活動を通して、父親と教師がコミュニケーションを図り、幼稚園への協力・理解を深めてもらう目的で発足。第1回(発会式)2007年度は活動したが、その後は残念ながら実現していない。

⑭ 園長自ら正門に立ち朝の挨拶活動励行

雨の日、風の日、暑い日、寒い日も、子ども達と保護者を笑顔でお迎えし、重要なコミュニケーションをはかる手段として実行中。同様に時々園バスに乗車しお迎え時に挨拶活動実施。しかし立門回数が年令と共に減少しているのは事実で反省している。

3、施設、設備及び環境整備

① 各保育室にエアコン設置

近年、地球温暖化の影響が年々夏の暑さが厳しくなり、園児達の体調面に配慮し導入。

② 2008年度より実施のミニバス(ワゴン車)をタクシー会社への業務委託続行中

財政的には負担増であるが、園児数拡大に大きく貢献しているのは事実である。

③ 各保育室前廊下の床研磨

古い廊下で美観が損なわれていたため、木の本来の良さを蘇らせて快適な園生活をさせたいとの思いで改修し完成。

④ 園内トイレを数個洋式に改装推進

職員室以外すべて和式トイレ。現在一般家庭でも洋式が普及している中で、幼稚園も3・4歳の子ども達のために1～2台は様式トイレを設置したい。

⑤ 廊下に雨が降りこむための防御策

雨風がひどい日は廊下に雨が降り込み、子ども達が朝の靴の履き替え時に、濡れてしまい苦慮している。

⑥ 園庭整備の推進

園庭整備のため自動式芝刈り機を購入し、常に芝が刈られていて美しい園庭にしたい。緑の芝生の上で子ども達を気持ちよく素足で遊ばせたい。また、花いっぱい運動を展開し、一年中花に囲まれている園庭で子ども達の笑顔があふれている幼稚園を目指したい。

4、危機管理

- ① 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- ② 幼稚園の遊具による事故は致命傷となるので、学期ごとに職員総出で点検している。(特に木や鉄の腐食摩耗等を要注意)
- ③ 園児の避難訓練は年間を通して実施している。(各学期に2回実施。不審者、火災、地震)
特に不審者対策では正門前の運行部に応援要請してある。
- ④ 職員室には「さす股」も常設している。
- ⑤ 不審者対策の道具ネットランチャーを購入し万全を期す。(ネットランチャーとは鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつ়く画期的な防犯対策機器。)
- ⑥ 新型インフルエンザについて。
全国的に猛威を振るった今年のインフルエンザ。
本園も予防対策を実施していたが蔓延し、園医野田先生のご指導ご助言を受け、11月9日学級閉鎖(1クラス)翌日10日園閉鎖(～13日まで)の事態となった。
「こども達の安全を最優先」に園長として苦渋の選択を決断した。